

# 山口県総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成27年5月12日(火) 14:00～14:45
- 2 場 所 山口県庁4階 共用第1会議室
- 3 開 会 (事務局)
- 4 知事あいさつ

本日は第1回の総合教育会議ということで、教育委員の皆様方には、大変お忙しい中、お集まりいただき、また各委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の充実のために、多大なご尽力をいただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。既にご案内のとおり、教育委員会制度の改革にかかる法改正、これが平成27年4月1日から施行されており、本県においても、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」として浅原教育長が就任され、既に新しい体制によって教育行政が推進をされている。本日の総合教育会議は、この教育委員会制度改革の一環として、すべての地方公共団体に設置するというようになっており、知事等の、首長と教育委員会とが協議・調整することにより、両者が教育政策の方向性を共有して、一致して執行にあたっていこうという趣旨のものである。私としては、「活力みなぎる山口県」を目指している中で、本県の活力創出の主役となるのはやはり人であると考えている。また、将来の地域を担う人を育てるという意味で、教育行政の充実は大変に重要であると思っている。昨年度「チャレンジプラン」という県政運営の指針を策定し、この中でも重点的な取組を進めていくということにしているが、教育委員会におかれてもチャレンジプランの取組を十分に御理解いただいております、強力に推進していただいている。これまでも教育委員の皆様方とは様々な形で対話をし、また連携をしてきている中で、今回、正式な場として皆様方と意見交換ができるということは、大変意義深いことであろうと思っている。教育委員の皆様方と今後一層力をあわせ、問題意識を共有して本県の教育の充実に向けて、しっかりと取り組んでいきたい。是非忌憚のないご意見・ご提案をいただくよう、お願い申し上げます。

## 5 議事概要 (議事進行: 知事)

※委員発言: ● 事務局説明等: ○

### (1) 山口県総合教育会議について

- 事務局から会議の基本的な考え方や協議事項、開催スケジュール等について、資料1に沿って説明
- また、会議の運営については運営要綱よることを説明
- 出席者全員意見なしのため、会議の基本的な考え方や協議事項、開催スケジュール、運営要綱について資料1のとおり決定

### (2) 山口県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱(山口県教育大綱)について

- 事務局から大綱の策定趣旨や策定方針等について、資料2に沿って説明

#### ● (浅原教育長)

策定方針について、県教育委員会としては教育振興基本計画もあり、この度未来開拓チャ

レンジプランも作られ、また新しい大綱ということで、屋上屋を重ねることはあまり好ましくないなと思っていたところ、再構築をして策定するというので基本的にはベースはこのままだということ、大変ありがたく思っている。是非この方向で進めていただきたい。

○その他に意見なしのため、大綱の策定趣旨や策定方針等について資料2のとおり決定

○事務局から大綱の策定に向けた項目整理について資料3に沿って説明

●（村岡知事）

事務局が示した5つの柱の下で各般の施策を進めていきたいと考えている。特に1番の社会総がかりでのやまぐち型地域連携教育の推進、2番の地域の将来を担う心豊かな人材の育成について取組を重点的に進めていきたい。中でも、特に全国トップのコミュニティ・スクールの設置率、これをさらに伸ばしていくとともに、その活動の中身自体も充実をさせて地域住民の皆様の理解、あるいは参画を一層促進していきたい。具体的にはコミュニティ・スクールが核となって、各中学校校区に地域のネットワークを築き、学校とそして家庭と地域が連携、協働することにより学校教育あるいは学校運営の質の向上、学校を核とした人づくり地域づくりを実現する、そういうやまぐち型地域連携教育を進めていきたい。地域の子どもたちの育ち、あるいは学びを支援していく山口県独自の仕組である地域協育ネットの活動も充実をしていきたい。設置率100%となっている地域協育ネットの取組の充実を図るために、統括コーディネーターの計画的な育成等に取り組んでいきたい。それから地方創生の取組とも共通するが、特に山口県の今の人口の社会減の流れを断ち切るということが大変重要であると思っている。地元への定着を促すような、故郷を大切に思うような教育についても力を入れていく必要があると考えており、そういう観点から山口県の産業を牽引していく、人材育成をしていくために地域や産業界と連携をしたキャリア教育を強化するとともに、子どもたちが決まりを守ったり、思いやりの心を持ったり、豊かな人間関係など、故郷を愛するそういった心を育んでいけるような道德教育を充実させていきたい。

これらに加え、子どもたちの学力、あるいは体力といった基本的な力を養成するための3番の未来を切り拓く確かな力の養成、児童生徒がそれぞれの力を伸ばすための基盤となる環境づくりである4番の質の高い教育環境づくりの推進、そしてまた県民誰もが様々な学びの活動を通して、いきいきと暮らせる社会を実現するための5番の県民誰もが学び続ける生涯学習社会の実現ということと合わせ、5つの柱を設定したいというふうに考えている。こういった方向性の下、教育行政の執行に当たっては是非教育委員会の皆様のお力添えを頂きたい。

●（山縣委員）

3月末まで旧制度で教育委員長させていただき県議会にも出席し、教育委員会制度の問題等が議論され、今まで山口県の教育行政はどうだったのか、問題あったのかという質問を頂き、その時私の任期中は全く問題なかった、非常に円滑に進んでいるということを申し上げた。何故山口県においては上手くいったかという、教育委員会、狭義の教育委員会と広義の事務局を含めた教育委員会、その辺の連携が上手くいっていたと思っている。それぞれが自分の持ち分、例えば、教育委員というのはまさにレイマンコントロールで、それぞれの分野でいろいろやっており、教育に関しては別に専門家でもないが、例えば一年半前に山口県教育振興基本計画を策定した際には、私どもの意見も多く取り入れていただいております、信頼

関係と連携が上手くいったから旧制度でも上手くいった。このたび新制度に移行するにあたって、今までもちろん知事と教育長も連携してよくやられていたと思うが、今まで以上にコミュニケーションを行うことで、間違いなく今まで以上に質の高い充実した山口県の教育行政が遂行されると思うので、是非その辺りを一県民としてもお願いしたい。

未来を切り拓く確かな力の育成ということで、確かな学力、健やかな体の育成ということもあるが、やはり教育振興基本計画の中にあるが、未来を拓くたくましいやまぐちっ子の育成の中に、創る力、あるいは学ぶ力、そして生き抜く力というのがある。非常に豊かになっている中で、強く生き抜くということ、道徳ということになると思うが、そういう点を是非進めて頂きたい。

教育長からもあったが、教育振興基本計画と屋上屋に重ならないような形で、大綱も十分考慮した形で作っていただきたい。

●（稲野委員）

山口県教育委員会は今までも頑張ってきてられて山口県教育振興基本計画では私たちの意見もいろいろと反映させて頂いた。知事も言われたが、山口県で子どもたちが一番どういうふうにしていくと上手くやっけていけるのかということを考えて時にやはり安心して子育てが出来るということが一番大事ではないかと思う。やはり教育にしても地域のいろんな活動にしても、やはり人材が一番大事、その中で教育はやはり一番大事なことかなと思っている。

私は医療現場で特に精神科の医師をしており、特にいじめの問題や道徳教育、特別支援教育などの障害がある方たちの教育に関し、いろいろとご意見させて頂いた。いろんな障害のある方、いろんな特性を持った方など、子どもそれぞれ一人ひとり違うという中で、一人ひとりの子どもに合った充実した教育、子育てを充実させる中で人は定着するのでは。そういった中で山口県の教育を考えていただけるといいなと思う。

教育の中で一番大事なことは学力の保障かなと思う。私学に流れるってということではなく、公的な教育の中でいろんな道に進んでいける、そういった確かな学力を保障する中でやっていただけたらと思う。

●（岡野委員）

コミュニティ・スクールの件で、去年の中国ブロックの教育委員会議で山口県が100%を目指してコミュニティ・スクールを進めているという話をしたところ、他県からどうしてそんなに進んでいるのかという質問があった。こうしてコミュニティ・スクールが100%を目指して動くことが出来るのは県教委とそれから市教委、地域の皆さんの思いが一つになって同じ方向を向いているからコミュニティ・スクールの普及が上手くいっていると思う。これを充実させるため、どのような形でその地域に合った、その学校に合ったコミュニティ・スクールの形を築き上げていくか、今からの一番大きな課題になるのではないかと。市教委とかいろんな地域の方々と県教委がサポートしながら一緒に協力して作り上げていくと、面白い山口県の一つの形ができあがるのではないかと。是非進めて頂きたい。

今回ユネスコの関係で、産業遺産で萩の方が取り上げていただけになった。萩市にはそれほど大きな規模の建物等はないが、人材を送り出したということで、この産業遺産の中に入れていただいたと思う。松下村塾で学んだ偉人たちがそれだけたくさん萩にはいて、日本のため、世界のためにいろいろ活躍したということが改めて萩としてはとても誇らしく

思う。これからの日本を支えるにも人材育成、人づくりっていうのが一番大きな柱になるんじゃないかと思う。それには今の子どもたちに、大人もだが、私たちの故郷山口県にはこんなにすばらしい偉人たちがいたんだときちんと伝え、それを誇らしく思うことができるよう、そして誇らしく思ったことが自分たちの未来につながるよう、教育の中にそういったことを入れ込んで頂きたい。

食育について、食育は学校教育の中だけではできない。家庭・地域・学校3つが一緒になってそれぞれの役割分担があって食育は育つと思うが、学力の前に私はいつも食が大事だと言っている。体をつくってまず元気にならないことには、そのベースがあってこそ学力、体力という思いを持っている。食育に関してはコミュニティ・スクールの中でもしっかり取り入れて頂きたい。地域の方、そして学校、生徒達、子どもたちと一緒に食の素晴らしさ、そして山口県の食の素晴らしさも是非伝えてほしい。郷土に育った郷土料理も山口県にどうしてこの食が郷土料理として生まれたか、ということは食を通しての歴史に結びつけることができ、そういった観点から食に関することを、もう少し重点的に皆さんで考えて頂きたい。

学力向上に繋げるため教職員の資質向上はとても大事。是非この点はもう少し具体的な案があれば出していただきたい。先生方とても忙しいが、やはり学校の執行部の先生方の考え方がしっかりしていれば、それに若い方々がついていかれる。また先生同士のコミュニケーションづくりも必要だと思う。みんなで知恵を出しあいながら、仲良く子どもたちのお手本になるような素晴らしい先輩として先生方に育ってほしいし、指導もしてほしい。

●（中田委員）

今年の3月に福井県の教育委員会の方に行って訪問調査をさせていただいた。全国学力調査で福井県というのはこのところもう数年間にわたってトップの成績を占めている。ずっとトップを維持しているっていうのは何か秘訣があるのではと思った。一番気付いたのは家族の仕組みが山口より大きいということ。若い夫婦に子どもという単位に加え、おじいちゃん、おばあちゃんがまだ一緒に生活している家族が非常に多い。これが何故いいのかと言うと、お父さんお母さんに対し、そういう年代の方々が教師というのをもっと信頼しないといけないうことを継続的にずっと言っている。これにより、孫もその若い夫婦も学校に対する信頼感が非常に強く、学校からすると無駄なことに時間を費やさなくてよくなる。モンスターペアレントというような問題があるが、本来の教育以外多くの時間を先生たちが費やすことになってしまう。そういうところを極力少なくすることに、大きな家族単位というのが役立っている。これは環境の問題で、簡単には実行できないかもしれないが、山口はコミュニティ・スクールというような形では全国では先駆けており、こういう仕組みを使って福井県とは別の形で信頼関係を作れば無駄がなくなるのではないか。

スポーツでも勉学でも、成功した学生というのは毎日の生活を送る上での意義付けがはっきりしている。自分は何のために今これをやっているのかということを繰り返し問いかけている。これをやれる学生は勉強の中には面白くないものもたくさんあると思うが、常に自分を刺激しながら継続できる。試験の前にちょこちょこっと勉強してそのときだけ覚えて終わってしまうと全部忘れてしまうというような教育が一番無駄が多い。小学校から高校までの教育もそういう教育は止めてほしい。先生の方も例えばこの私のこの教科、そしてこの部分っていうのは何のために役に立つかというような意義付けを学生に常に教えていく。学生も

そういうサジェスションを受けながら、これを勉強するのは今は面白くないけども、将来こう役に立つんじゃないかとか、そういう問題意識を持ちながら教育をしていただけると無駄な部分がいくらかでも解消されるのではないかと。

●（宮部委員）

私は事業をやっており、その観点からキャリア教育について。地方創生や、知事もチャレンジプランの中で、地場企業の育成とか、地場産業の育成、また地産地消、いろいろ方向性を示されているが、現実には働く人がそれについていけない。

私の企業でも職場体験、見学、インターンシップ、10数年前からやっているが、なかなか地元の高校生や大学生が地元中小企業に足を向けてもらえない。やっていることは間違っていないと思うが、先生方が子どもたちに本当に地元に残るように、地元を盛り上げるとか、大事にするとかを含めたかたちで教えていただければ、それぞれの企業も助かるし、人材も定着するのではないと思う。跡継ぎだけでなく、一般の子どもたちが地元定着に向くようないい教育の仕方があればと常々思っている。

コミュニティ・スクールについて、岩国市が今年は100%なるそうだが、ずいぶん今からスタートするところと先行しているところで中身の違いがあると思う。成功事例のところ、遅れてスタートしたところは知恵を頂きながら、県内が同じレベルで進むような形をお願いしたい。

スポーツについて、小学生の運動機会が大変減っているということで、スポ少でやっている子、何もしない子という二極化が進んでいる。体育の授業だけではなかなかまかなえないと思うが、外遊びという形で体を鍛えるなど、健康な体づくりに力を入れる方策をお願いしたい。

●（浅原教育長）

大綱の策定に向けた項目整理の中の最初にある社会総がかりでのやまぐち型地域連携教育の推進について。平成27年4月現在、山口県でのコミュニティ・スクールの設置率は90.2%。国においては現在地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中で、置くことが出来ると規定されている学校運営協議会、学校運営協議会を設置した学校がコミュニティ・スクールだが、その置くことが出来ると規定されている学校運営協議会を必ず置くということについて、今年度検討が進められることになっていると聞いている。本県では小中学校について100%目標と、全てコミュニティ・スクールにするという目標を立てており、それは基本的には達成できると考えているが、問題は先ほどから話があるように、設置率の話ではなく、中身をどう充実していくかという話。先ほど宮部委員さんの話にもあったが、本県の設置校でも現在すでに設置して何年か経って、そして大変充実した取組をしているコミュニティ・スクールもある。また、これからコミュニティ・スクールになる学校、あるいはコミュニティ・スクールをまだ設置しただけ、運営協議会があるだけという学校もある。是非どの学校も充実したコミュニティ・スクールとなるようそれぞれ市町教育委員会と連携して、全力で指導・支援をしていきたい。特に地域の方による授業参観、授業評価など、学校運営に地域の方が協力をしていただく、あるいは学校での読み聞かせとか環境整備、清掃活動など、地域の方が学校を支援する取組、要するに外から何かしてもらおうという取組だけでなく、本県の特徴である、学校が地域貢献できるか、学校の方から地域に何か貢献できないか、例

えば学校が災害ボランティアに協力するとか、あるいは地域住民のための公開講座を開くとか、いろんな取組をしている学校もある。そういった学校の方から地域の方へ働きかけるという取組を是非もう少し進めたい。それから本県独自の地域協育ネットと一体となった活動を推進することで、社会総がかりの活動、やまぐち型地域連携教育というものをしっかり充実していきたい。こうした取組を通して、学校を中心としてその地域が活性化すると、そしてそうした地域の大人からいつも見守られて育っている子どもたち、あるいは地域との密接な関係の中で育ってきた子どもたちは自然に生まれ育った地域に愛着を持ってその将来を過ごしていくと。あるいはさらには地域に戻ってきて住みたいというような子ども、そういう思いを持ってくれる子どもが出てくるのではという期待をしている。教育の力で地域を動かすとか、教育は地方創生のためのエンジンとしての役割を果たす、そういうことが期待されている中で、是非そうした役割を果たしていきたい。

●（村岡知事）

各委員の皆様からご意見を頂いた。コミュニティ・スクールの関係、多くの方も言われたが、これを先ほど冒頭言ったが、私も一層必要があると思っている。これは今教育長も言われたが、学校運営に地域が関わっていくことに加え、学校の方から地域に貢献していく、学校と家庭、地域の信頼関係を作っていくということが様々なところでいい効果を生んでくるのではないかな。もちろん学校と地域、家庭との信頼関係、地域の活性化、将来を担う人材が地域に愛着を持つ等、様々な面で効果があるのかなと思っている。しっかりと今のご意見を踏まえ、取り組んでいく必要があると思う。またそれ以外でもキャリア教育の関係、あとは学力の問題、それから体力、スポーツ等、様々な貴重なご意見をいただいた。今いただいた貴重なご意見を踏まえ、大綱の策定作業を進めていきたい。次また9月、それから2月ということで審議していく中で具体化を図っていきたい。

○その他会議全体を通して、特に意見なし。

●（村岡知事）

これで議事としては終わりということで私の方から一言。今日は、大変貴重なお時間をいただき、教育について貴重なご意見いただき感謝申し上げます。これまで山口県の教育行政進めてこられた皆様方からの貴重なご意見をお聞きし、大変参考になった。これから大綱を作っていく上で、今日のご意見をしっかりと踏まえて考えていきたい。次回は大綱の案を作成し、皆様にまたご審議をいただきたい。9月頃に会議の場を設けたい。引き続き会議の運営しっかりとやっていくとともに、県と教育委員会と同じ方向を向いてやっていく、さらにいうと地域と一緒にやっていきたい。コミュニティ・スクールだけではなくて、様々な取組、教育の成果を上げていく上で重要だと思っている。まずは県と教育委員会の方でしっかりとこういう場を十分活用しながらよく意見交換をして連携しながらやっていければと思っている。今後ともよろしくお願ひしたい。

## 6 閉会（事務局）